

# 2023年度 基本方針・事業計画

持続可能な環境エネルギー委員会

【基本方針】

委員長 永井 勇也

(ミッション) 「原子力発電所と共存する方法を考え、ESGに触れることで、持続可能な経済活動を行う足掛かりを作る」

エネルギーにまつわる議論は、時代背景に合わせて、絶えず変わり続けてきました。特に柏崎刈羽地域では、原子力発電所の建設時に、さまざまな議論が交わされました。一般社団法人柏崎青年会議所は、原子力発電所建設推進決議を採択し、原子力発電所の建設の賛成を明確に打ち出すなど、エネルギーの議論に対して、行動し続けてきました。

近年は、有事の際の原子力発電所事故によるリスクが顕在化した一方、エネルギー安全保障、安定した電力の供給という観点から、原子力発電を行わないリスクも論じられるようになりました。また、政府が柏崎刈羽原子力発電所の再稼働を目指す方針を確認するなど、日本のエネルギー事情は、転換点を迎えたと言えます。

そこでまず、現在のエネルギーにまつわる議論の内容とその背景を整理し、原子力発電をするリスク、しないリスクを理解します。次に、現在の議論を踏まえ、一人でも多くの人が合意したうえで、原子力発電所と共存するために必要な要素や、現在の取り組み、今後の展望を学習します。

今後は、これらの論点に加え、環境意識の高まりによる、環境負荷の少ない発電への要求が更に強まると想定されます。これは、すべての経済活動でも同様に求められ、具体的にはESG、E(Environment・環境)S(Society・社会)G(Governance・ガバナンス)という考え方が必要になります。ESGでは、この3つを、経営上のリスクと捉えつつ、これらを意識して経済活動を行えば、長期的に見て会社の利益となるというもので、諸外国ではすでに持続可能な経営のために活用されています。ESGに触れ、柏崎刈羽地域の企業、さらには柏崎刈羽地域全体が持続可能な経済活動ができるまちとなるための足掛かりを作ります。

経済活動は、単に利益を出すだけでなく、それを通じて社会環境、自然環境に好影響をもたらす必要があると考えます。柏崎刈羽地域の経済活動が地域全体に良い「円」を生み出すための起点となるべく、行動します。

・担当例会(4月)

現在のエネルギーに対する議論の要点とその社会的背景を正しく理解し、再稼働予定の柏崎刈羽原子力発電所が地域と共存し続けていくために必要な要素について考える場とする。

・担当例会(10月)

経営を行う上での新たな考え方であるESGを理解し、柏崎刈羽の企業が持続可能な経営を行うための足掛かりを作る。

・柏崎刈羽原子力発電所見学(5月)

原子力発電の仕組みや柏崎刈羽原子力発電所構内の現状を実際に見て、職員から話を聞くことで、原子力発電所の基礎的知識を学び、原子力発電所の今後を考える契機とする。